

第六十八回 全国俳句山寺大会

閑きや岩にしみ入蟬の声

芭蕉翁が曾良と共におくのほそ道の旅で山寺を訪れたのは元禄二年五月二十七日(新暦七月十三日)です。

当俳句大会は芭蕉翁の山寺来訪を記念し、毎年この時期に開催しています。

本年は選者として高野ムツオ先生をお招きします。

多くの皆様のご投句、俳句大会へのご参加をお待ちしております。

蟬の鳴く七月に山寺でお会いしましょう。

主催

公益財団法人山形市文化振興事業団

共催

山寺文化保存会

協賛

山形県俳人協会

後援

山寺観光協会

山形市教育委員会、山形市芸術文化協会、

山形新聞・山形放送、朝日新聞山形総局、

毎日新聞山形支局、読売新聞山形支局、

産経新聞山形支局

●河北新報社、NHK山形放送局、山形テレビ、

テレビユー山形、さくらんぼテレビ

主管

全国俳句山寺大会実行委員会

第六十八回 全国俳句山寺大会

作品募集要項

選者

高野ムツオ 「小熊座」主宰 読売新聞「読売俳壇」選者 河北新報「河北俳壇」選者
 土肥あき子 現代俳句協会会長 日本現代詩歌文学館館長
 村上 鞆彦 「絵空」同人
 鈴木 正子 「南風」主宰
 伊藤 寛 「初蝶」同人 「胡桃」主宰 山形新聞「やましん俳壇」選者
 大類つとむ 「古志」同人 山形県俳人協会会長
 牧 静 「陸」同人 山形新聞「やましん俳壇」選者 山形県現代俳句協会会長
 伊藤 ふみ 「馬酔木」同人 毎日新聞「みちのく文苑」選者
 ※小・中・高校生各部の選者は高野ムツオ、土肥あき子、村上鞆彦
 当季雑詠 未発表作品

応募作品

二句一組 一人三組まで
 小・中・高校生は一人二句まで（春または夏の句）
 左記投句用紙に必要事項を記入の上、投句料を添えてお送り下さい。
 定額小為替の場合、宛名無記名として下さい。

応募方法

小・中・高校生は左記のQRコードから応募して下さい。
 郵送でも可。詳しくは裏面をご覧下さい。（氏名・学校名・住所・連絡先明記）

投句料

二句一組で一、〇〇〇円
 小・中・高校生は無料
 令和七年五月九日（金）必着

応募締切

千九百九一三三〇一
 山形市山寺 山寺芭蕉記念館
 「全国俳句山寺大会」係

賞

山形市長賞
 山形県俳人協会会長賞
 山寺文化保存会会長賞
 山寺芭蕉記念館長賞
 特選 各選者一句 賞状 選者色紙染筆他
 秀逸 各選者三句 選者短冊染筆他
 佳作 各選者十句 賞品
 小・中・高校生各部特選 各選者一句 賞状 賞品
 投句集は投句集掲載者全員に差し上げます。
 入賞者（佳作を除く）にはご通知いたします。



ここから

<https://sites.google.com/view/yhkhp>

俳句大会日程

選者

高野ムツオ
 鈴木 正子
 伊藤 寛
 大類つとむ
 牧 静
 伊藤 ふみ

日時

令和七年七月十三日（日）
 午前九時受付開始

大会参加

令和七年五月九日（金）まで、投句用紙等でお申し込み下さい。

大会参加費

一、〇〇〇円（大会当日受付にてお支払い下さい。）

賞

高野ムツオ先生 特選一句 賞状 選者色紙染筆
 秀逸十句 こけし
 佳作五句 賞品
 その他の先生 特選一句 賞状 選者色紙染筆
 秀逸三句 選者短冊染筆
 佳作五句 賞品

俳句大会

〔午前十一時から〕
 大会式典（主催者・来賓挨拶、選者紹介）
 兼題句（事前投句）選評
 〔昼食休憩後〕

講演 高野ムツオ先生
 入選発表・選評・表彰
 〔午後四時終了予定〕

※大会参加者には記念品を進呈いたします。

お問い合わせ

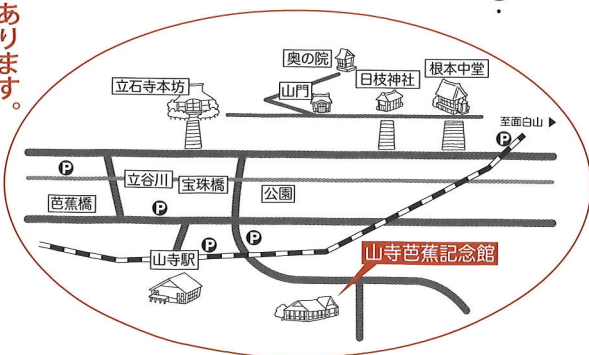
山寺芭蕉記念館
 〒九九九一三三〇一
 山形県山形市大字山寺南院四二二三
 電話 〇二三一六九五―二二二二
 FAX 〇二三一六九五―二五五二
<https://yamadera-basho.jp>

※俳句大会は諸般の事情により、大会の内容を変更する場合があります。

ご投句の際は、下記の宛先をご利用下さい

〒999-3301
 山形市山寺 山寺芭蕉記念館
 全国俳句山寺大会 係

作品在中



俳句

第68回 全国俳句山寺大会 作品募集

ここから



[小・中・高校生の部]
投句料無料 2句まで



【締め切り】 令和7年5月9日（金）
 【応募資格】 小・中・高校生
 【応募作品】 春または夏の俳句
 未発表作品
 【投句料】 無料
 【応募方法】 山形県俳人協HP
 【投句フォーム】から
<https://sites.google.com/view/ykhjp>
 ※郵送でも可
 【選者】 高野ムツオ
 土肥あき子
 村上鞠彦
 【賞】 特選・賞状・賞品
 【結果発表】 入選者に通知
 ※入選作品はHPに掲載

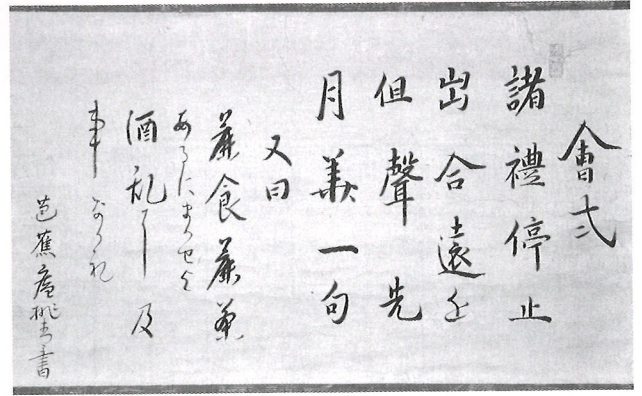


第68回 全国俳句山寺大会
日時：令和7年7月13日（日）
会場：山寺芭蕉記念館

〒999-3301 山形県山形市大字山寺字南院4223
電話 023-695-2221 FAX 023-695-2552
<https://yamadera-basvo.jp>

先して採用する。ただし、同時の場合は先に声をかけた者の句を採用する。月や花の句は一卷の飾りともいえる重要な景物の句であるから、決まり事に従い、作者が片寄らないようにとの制限を説いている。

「また曰く」と続けるのは、飲食の心得。軽易なお茶・食べ物はいいと説き、酒乱にまで及ぶべからずとしめくくる。



「会式」懐紙 松尾芭蕉筆

俳席における連衆の心得を書いたもの。絮柳編『俳遷遺墨』（万延元へ一八六〇）序）に模刻されたものの原本である。江戸期に作成された白字刷のものもあり、本文に異同がある。

内容の大意は次のとおり。俳席では無礼にならない程度に世間的礼儀を省略する。付句が重複して出された場合は、句並びの遠い作者を優



立石寺(山寺)仁王門付近

全国俳句山寺大会実行委員会 山寺芭蕉記念館

〒999-3301 山形県山形市大字山寺字南院4223
電話 023-695-2221 FAX 023-695-2552
<https://yamadera-basho.jp>